

(2) 様式第7号-2 (報告書)

(独立行政法人教職員支援機構委嘱事業)

教員の資質向上のための研修プログラム開発支援事業報告書

プログラム名	高等学校における課題探究型学習指導者の 基本スキルを支えるリーダー養成プログラム
プログラム の特徴	<p>宮城大学では、これまでも宮城県はもとより近隣の高等学校との高大連携を重視し、平成28年から年2回のペースで「高大連携事業調整会議」を開催している。本会議は、探究型学習に関心を示す、東北地域の高等学校の探究型学習指導担当者が出席し、高大連携における探究型学習の課題等の意見交換を行うことを主たる目的としている。その中で、高等学校からは日常の探究学習の指導において、テーマ設定、仮説の立て方、統計分析などの面で課題を抱えるとの声も多く聞かれる。これらのニーズを踏まえ、本学教員の専門分野を活かし、探究活動の指導に活用できるノウハウを体系化した研修プログラムを開発・実施し、その成果物として「探究学習を深化させた事例集」を作成して頒布する。</p> <p>なお、平成30年度からは「高大連携事業調整会議」において、本学教員及び高等学校教員から構成する課題探究型学習指導研修プロジェクトを併催し、本プログラムの継続的な改善を促す体制を構築していくこととしたい。</p>

平成31年3月

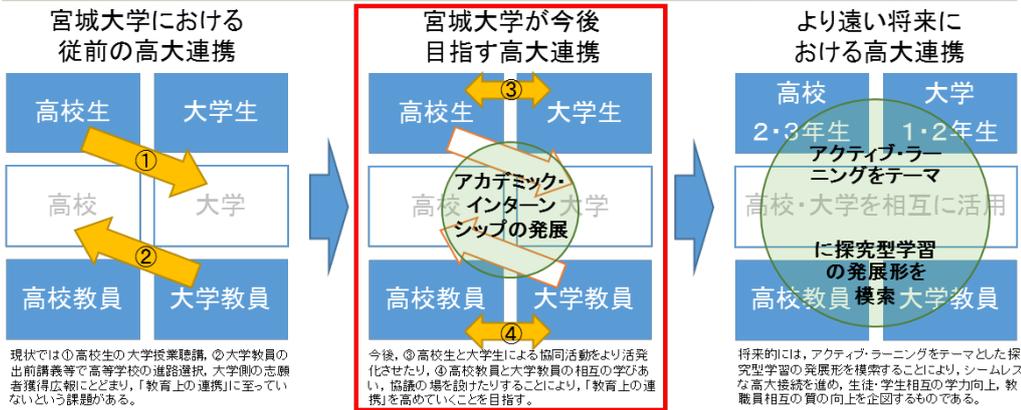
宮城大学

プログラムの全体概要

※各教育委員会等の研修実施の参考例となると思われる開発成果を中心に、プログラムの全体概要をポンチ絵等でまとめてください。

宮城大学「高等学校における課題探究型学習指導者の基本スキルを支えるリーダー養成プログラム」

宮城大学が目指す高大連携の将来像

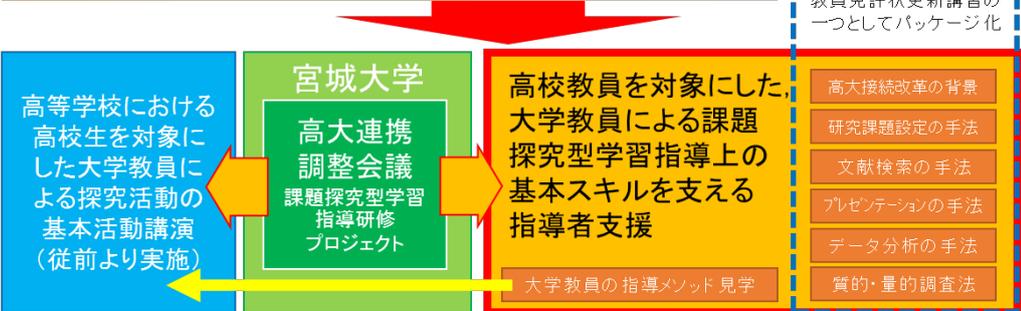


探究型学習を高校・大学の生徒・学生・教職員が一体となって開発・実施していくことにより、高大接続改革が目指す、Ⅰ 高校教育、Ⅱ 入学者選抜、Ⅲ 大学教育の一体的改革に新たな一石を投じるモデルを構築する。

< 具体的な開発・実施スケジュール >

- 平成30年4月
 - ・高大連携事業調整会議 課題探究型学習指導研修プロジェクトの立上げ
- 平成30年4月～6月
 - ・高等学校教員を対象とした課題探究型学習の基本活動を支える研修プログラムの開発・実施
- 平成30年6月
 - ・高大連携事業調整会議及び課題探究型学習指導研修プロジェクトの開催
- 平成30年4月～平成31年3月(随時)
 - ・高校生向けの「探究学習の基本スキル」講義を通じた、高校教員の指導研究会開催(高等学校毎及び個別教員参加の2タイプ)
- 平成30年8月8日, 9日
 - ・高校生向け「アカデミック・インターンシップ」の授業公開, メソッド見学
- 平成31年2月
 - ・「探究学習を深化させた事例集」の作成
- 平成31年2月18日
 - ・宮城大学高大連携シンポジウム「大学と高等学校の協働による探究型学習のさらなる可能性を探る」の開催
- ・高大連携事業調整会及び課題探究型学習指導研修プロジェクト会議開催
- 平成31年3月
 - ・高大連携シンポジウム実施報告書及び「探究学習を深化させた事例集」の頒布

平成30年度に実施した「課題探究型学習指導者の基本スキルを支えるリーダー養成プログラム」について



1 開発の目的・方法・組織

① 開発の目的

宮城大学は、「地域に根ざした教育重視の公立大学」として、宮城県はもとより近隣の高等学校との高大連携を重視してきた。その中の取組みとして、平成 23 年度から継続して実施している高校生を対象とした「アカデミック・インターンシップ」では、学問的探究の楽しさを高校生に伝え、指導を行っている。また、平成 29 年度からは、複数の高等学校の「総合的な学習の時間」を担当する教員と協働し、高等学校の年間プログラムとして「探究学習の基本活動」について、アクティブラーニングの手法を用いながら、高等学校の教員とともに本学教員が直接高校生に指導を行っている。さらに、その年間プログラムで出てきた指導上の課題を、高等学校の教員と共有し、課題解決に向けて検討や研究を重ねてきているところである。これらの一連の取組みの中で、高等学校からは日常の課題探究型学習の指導において、テーマ設定、仮説の立て方、統計分析などの基本的なスキル面で指導上の課題を抱えるとの声も多く聞こえている。

このような背景・趣旨から、高等学校の現場で起こっている課題探究型学習の指導上の課題を解決するために、大学のリソースを活用した課題探究型学習指導者の基本スキルの習熟を支援するプログラムを開発・運営することにより、高等学校における課題探究型学習指導のカリキュラム・マネジメントを担うリーダーを養成していくことが本プログラムの目的である。

② 開発の方法

本プログラム開発開始と同時期に、全学横断プロジェクトチームである「宮城大学高大連携プロジェクトチーム」が平成 30 年 4 月に発足し、プログラム申請時から一部メンバーの変更、追加が発生しているが、プログラム開発は本プロジェクト内で組織的に実施された。

プログラム開発前の平成 30 年 2 月に実施した「平成 29 年度第 2 回宮城大学高大連携事業調整会議」の中で、高等学校進路指導担当者の高大連携ニーズの確認や、宮城大学が目指す高大連携の姿について説明を行う中で、一部高等学校から「高校の職員研修会の場において、探究学習を進めていく上での考え方を共有したい」という要望があった。このことを契機に、第 1 段階として宮城県富谷高等学校との打合せを重ねながら、「高大接続改革から見る探究学習実施の背景」と「探究学習を指導する上でのポイント」の 2 本立てでの教員研修プログラムを実施した。

ここで実施された研修プログラムを平成 30 年 6 月に実施した「平成 30 年度第 1 回宮城大学高大連携事業調整会議」の中で参加高等学校に情報共有を行うと同時に、各高等学校で抱える探究学習の課題について意見交換を行うことにより、開発した研修プログラムの再検討に着手した。

また、第 2 段階として、例年宮城大学で実施している高校生向け公開講座「アカデミック・インターンシップ」に、高等学校教員が講座見学することを通じ、大学での探究的な学びについて理解を深める取組を実施した。台風等の影響で一部中止を余儀なくされ、当初想定したほどの効果を得ることができなかったものの、講座見学した教員からは大学での指導方法について理解を新たにしたいといったような反応が得られた。

この間の取組の中で副次的な効果も得られた。先述した調整会議における富谷高等学校の事例を参考に、同様の研修を実施してほしいとの要望が山形県立山形北高等学校からも寄せられ、高等学校のニーズのすり合わせを行ったうえで、同校での教員研修会を実施した。

その他にも、教員研修会の実施までには至らなかったものの、宮城県古川高等学校、宮城県仙台東高等学校等から新たに高等学校の探究学習支援をお願いしたいという声を頂き、高等学校が企画する探究学習プログラムについて大学教員が指導助言を行うといった事例が新たに生まれることとなった。

このような取組や高等学校側からのアプローチを通じて、次第に高等学校側のニーズが「探

究学習を行う背景の理解」「課題設定方法の理解」「仮説検証に必要なデータ分析手法の理解」「学生の発表を支援する手法の理解」の4点に大別されることが把握できた。そこで第3段階として、これらを一つの研修プログラムとして実施できないかと考え、複数教員によるオムニバス講座を開発し、これを本学で実施している「教員免許状更新講習」の1プログラムとして試行的に実施を行い、13名に受講頂いた。

これらの取組を踏まえ、高等学校教員と大学教員が連携しながら探究型学習を深化させていくことを一つの課題提起として、本プログラムの締めくくりとなるシンポジウムを開催し、他大学の先進事例から取組を学ぶ研修会を開催した。本シンポジウムには大学教職員、高等学校教員45名の参加を得ることができ、今後高大連携を通じた相互の教育力向上に向けた新たなスタートを切るキックオフとなった。

以上、当初計画から若干の変更点はあるものの、概ね計画通りプログラム開発は実施され、その実施に伴う高等学校側からの評価も良好にある。

③ 開発組織

本プログラムは、以下「宮城大学高大連携プロジェクトチーム」内で開発を行った

No.	担当	氏名	具体的な業務所掌
1	高大連携担当副学長・理事	徳永 幸之	本プログラム総括担当者
2	食産業学群教授・基盤教育群長	川村 保	本プログラム実施責任者
3	基盤教育群准教授	川井 一枝	プログラム運営，実施庶務担当
4	看護学群教授	菅原 よしえ	プログラム運営，実施庶務担当
5	事業構想学群准教授	佐々木 秀之	プログラム開発，運営担当
6	事業構想学群准教授	石田 祐	プログラム開発，評価担当
7	事業構想学群准教授	石内 鉄平	プログラム開発，運営担当
8	食産業学群准教授	原田 鈺一郎	プログラム運営，実施庶務担当
9	特任教授（高大連携アドバイザー）	畠山 喜彦	研修コーディネート，連携協議会調整担当
10	事務局企画・入試課	菅原 正義	広報，実施庶務担当
11	事務局企画・入試課	高橋 征史	広報，実施庶務担当
12	事務局企画・入試課	岸根 大輔	プログラム運営，実施庶務担当

2 開発の実際とその成果

①教職員を対象とした集合研修会

○研修の背景やねらい

高大接続改革の全体像及び次期学習指導要領の改訂に伴い重視される「探究学習」のあり方について理解を深めるため、本学教職員が高校教員向けに講演を行い、高校教員との意見交換を行った。

○対象、人数、期間、会場、日程、講師

	富谷高等学校教職員研修	山形北高等学校教職員研修
日程	平成30年5月29日(火)	平成30年7月26日(木)
会場	宮城県富谷高等学校	山形県立山形北高等学校
講師	基盤教育群長兼食産業学群 教授 川村 保 事務局企画・入試課入試グループ 主幹 吉川陽大	
対象	高等学校教員72名中46名	高等学校教員29名

○各研修項目の配置の考え方(何をどの程度配置すべきと考えたか)

両高等学校からの要望は共通して「探究型学習を進める上で、その背景となる情報を教員間で共通したい」というところにあった。このことから、まず研修の前段において、国が掲げる「高大接続改革」の動向について再確認するとともに、宮城大学の入試制度がどのように国の方針とリンクしているか紹介を行った。

その上で研修の後段は、大学のゼミ活動における課題探究的な取組の中から生じうる指導上のポイントについて触れ、高校教員との意見交換を行った。

○各研修項目の内容、実施形態(講義・演習・協議等)、時間数、使用教材、進め方

時間	内容	進め方
20分	「高大接続改革実施方針が目指す方向性と大学の動向について」 講師：吉川陽大	平成26年度中央教育審議会答申及び平成28年高大接続システム改革会議「最終報告」を踏まえて文部科学省が平成29年7月に発出した高大接続改革実施方針の再確認を行い、宮城大学既に進めている入試改革についての紹介を行った。
40分	「課題研究のプロセスと指導のヒント」 講師：川村保	高等学校における課題研究の指導上疑問が生じうるポイントについて、「課題研究を始める前の心構え」「課題の設定方法」「研究の進め方」に重点を置きながらQ&A形式で紹介するとともに、それぞれの対応のヒントとなるアイデアや大学におけるゼミでの指導の事例を紹介しながら解説を行った。
30分	意見交換	高等学校側からは、課題探究を進める上で「調べ学習から脱却するにはどうすべきか」、という質問や、今後の入試でどのように「調査書を活用」していくのか、という質問がなされた。研修会後も個別に質疑応答があるなど、非常に活発な意見交換がなされた。

富谷高等学校教員研修会

日時：平成 30 年 5 月 29 日（火）14:10-15:40

場所：宮城県富谷高等学校国際講義室

対象：富谷高等学校教員 72 名

人数：当日参加者 46 名

【概要】

高大接続改革の全体像及び次期学習指導要領の改訂に伴い重視される「探究学習」のあり方について富谷高校教員内で理解を深めたいという趣旨のもと、基盤教育群長川村保（高大連携PT代表教員）、入試グループ主幹吉川陽大より講演を行った後、高校教員との意見交換を行った。

【講演】

「高大接続改革実施方針が目指す方向性と大学の動向について」

宮城大学アドミッションセンター 事務局企画・入試課入試グループ 主幹 吉川 陽大
平成 26 年度中央教育審議会答申及び平成 28 年高大接続システム改革会議「最終報告」を踏まえて文部科学省が平成 29 年 7 月に発出した高大接続改革実施方針について再確認を行いながら、英語四技能評価、共通テスト改革等に宮城大学がどのように対応を進めているか紹介を行った。

「課題研究のプロセスと指導のヒント」

宮城大学食産業学群教授兼基盤教育群長（高大連携PT代表教員） 教授 川村 保
高等学校における課題研究の指導上疑問が生じうるポイントについて、「課題研究を始める前の心構え」「課題の設定方法」「研究の進め方」を中心にQ&A形式で紹介するとともに、それぞれの対応のヒントとなるアイデアや大学におけるゼミでの指導の事例を紹介しながら解説を行った。

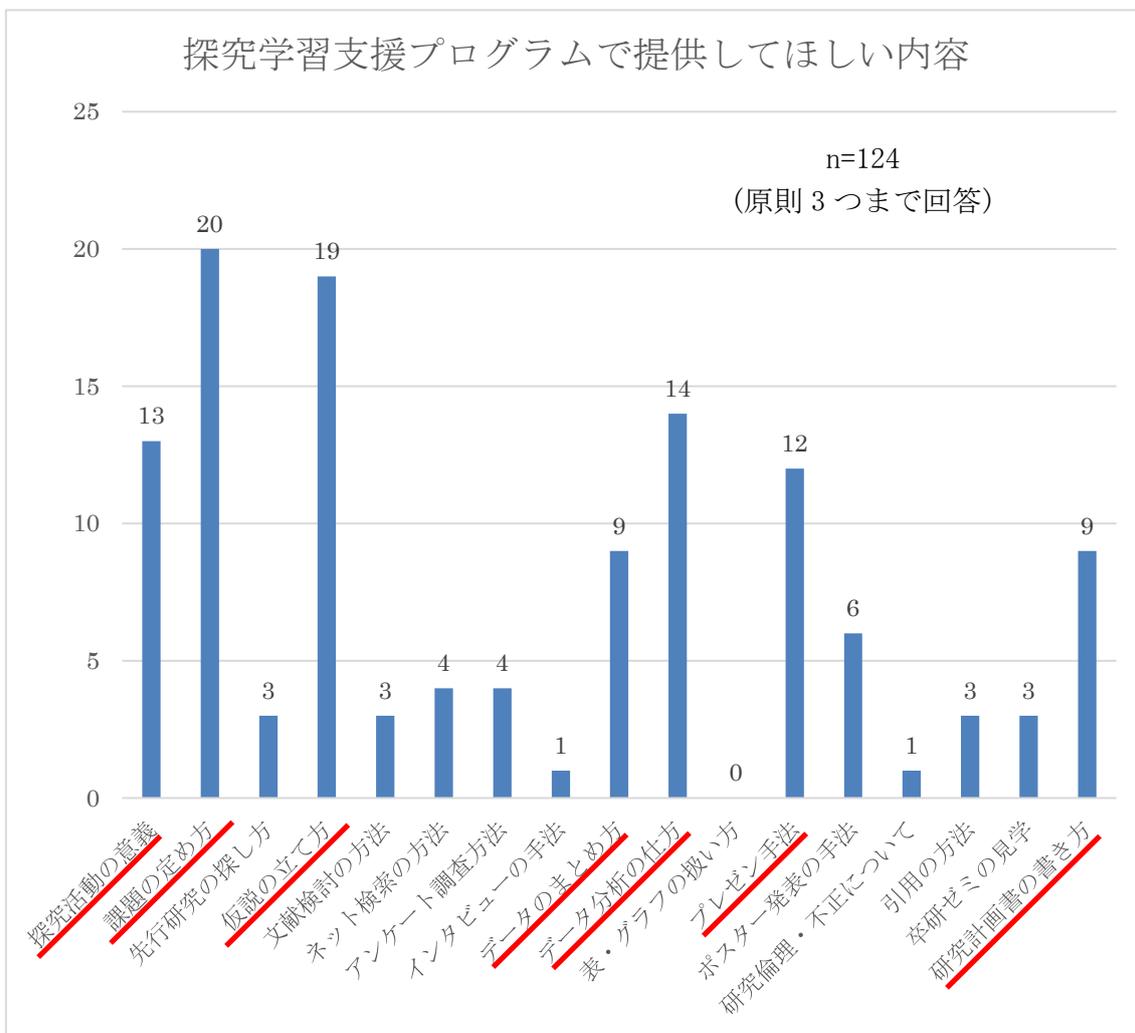
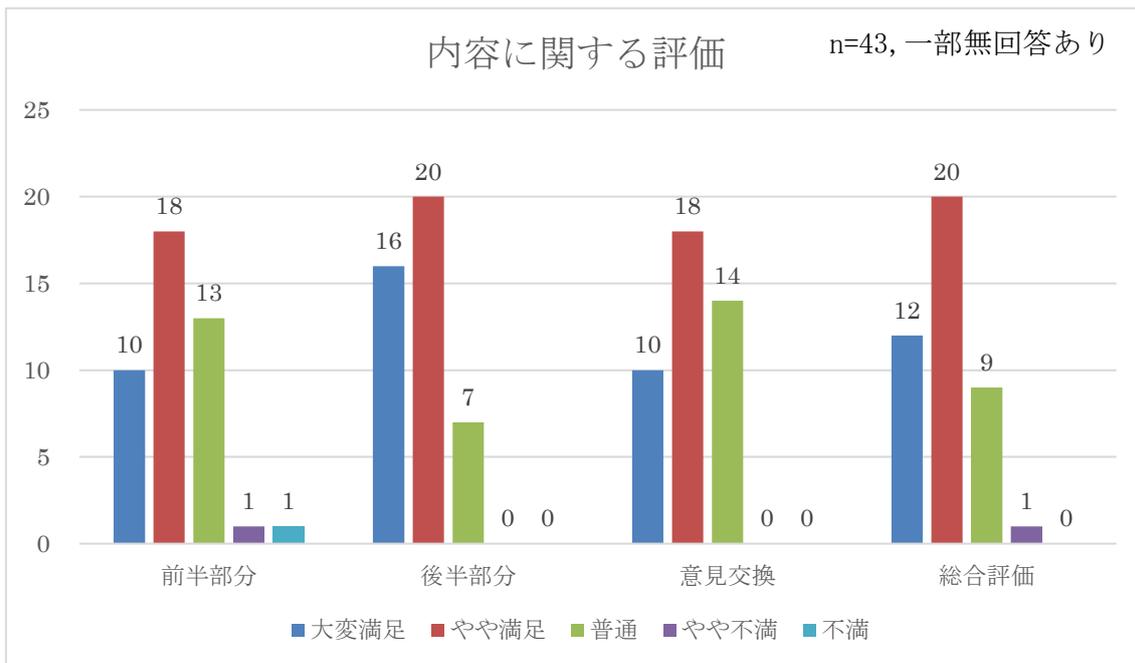
【意見交換】

高等学校側からは、大学側がどのような観点で高校生を見ているか、課題研究をより深めていくための生徒への働きかけ方について質問がなされた。また、課題研究を通じた高大連携についても意見交換がなされ、両者にとって有益な研修の場となった。

【当日の様子】



【アンケート結果から】



山形北高等学校教員研修会

日時：平成 30 年 7 月 26 日（火）15:00-16:30

場所：山形県立山形北高等学校会議室

対象：山形北高等学校教員

人数：当日参加者 29 名

【概要】

1 年次生から適用となる新学習指導要領における総合的な探究の時間をより充実させることを目的に山形北高等学校にて教員研修会が開催され、基盤教育群長川村保（高大連携 P T 代表教員）、入試グループ主幹吉川陽大より講演を行った。その後、高校教員との意見交換を行った。

【講演】

「高大接続改革実施方針が目指す方向性と大学の動向について」

宮城大学アドミッションセンター 事務局企画・入試課入試グループ 主幹 吉川 陽大
平成 26 年度中央教育審議会答申及び平成 28 年高大接続システム改革会議「最終報告」を踏まえて文部科学省が平成 29 年 7 月に発出した高大接続改革実施方針の再確認を行い、宮城大学既に進めている入試改革についての紹介を行った。

「課題研究のプロセスと指導のヒント」

宮城大学食産業学群教授兼基盤教育群長（高大連携 P T 代表教員） 教授 川村 保

高等学校における課題研究の指導上疑問が生じうるポイントについて、「課題研究を始める前の心構え」「課題の設定方法」「研究の進め方」に重点を置きながら Q & A 形式で紹介するとともに、それぞれの対応のヒントとなるアイデアや大学におけるゼミでの指導の事例を紹介しながら解説を行った。

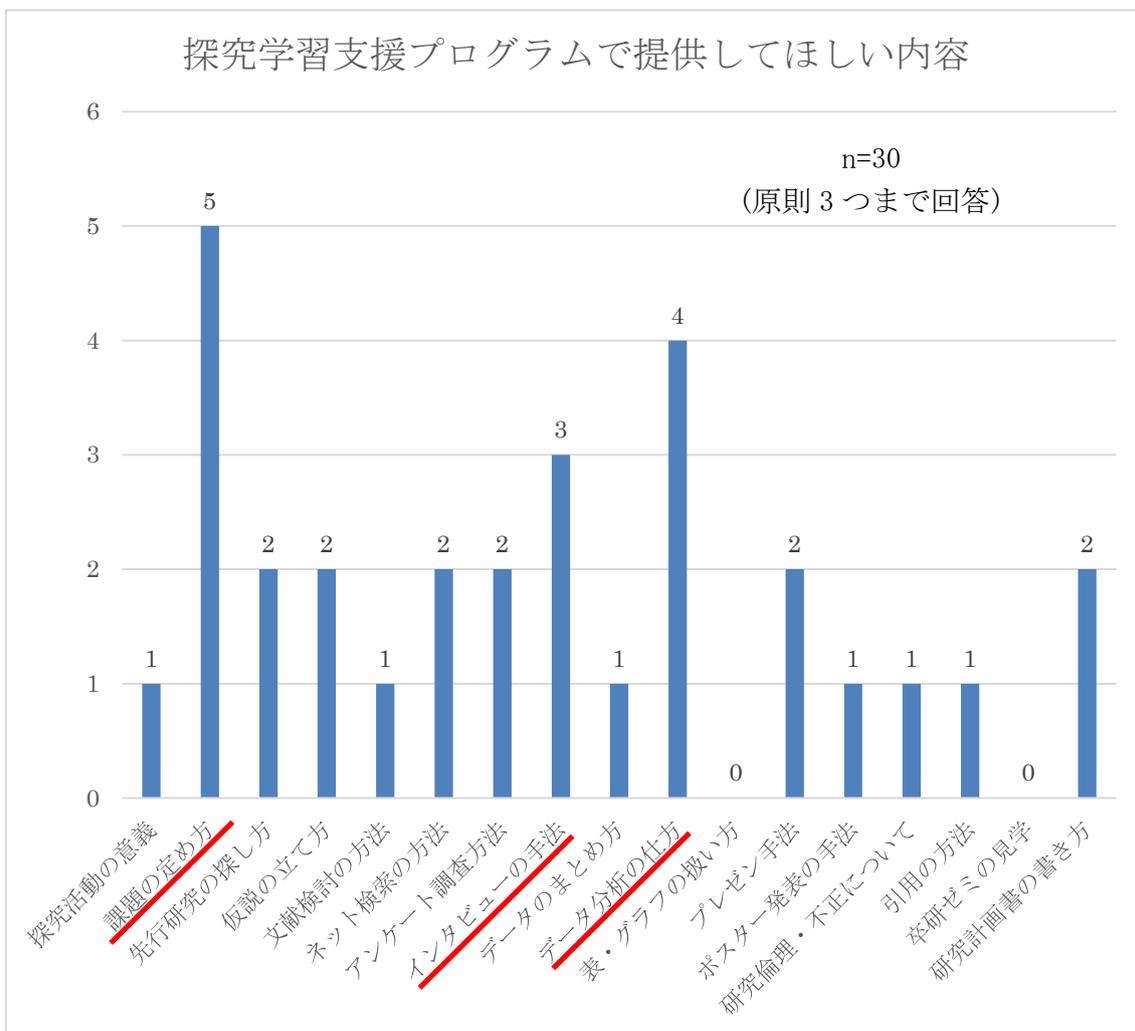
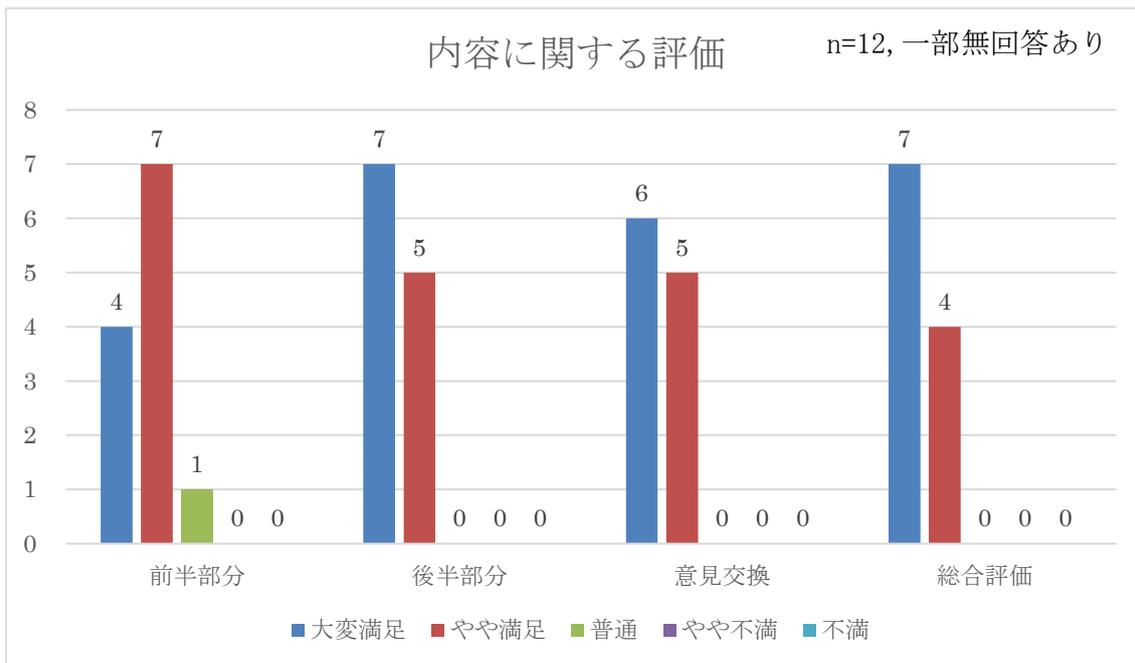
【意見交換】

高等学校側からは、課題探究を進める上で「調べ学習から脱却するにはどうすべきか」、という質問や、今後の入試でどのように「調査書を活用」していくのか、という質問がなされた。研修会後も個別に質疑応答があるなど、非常に活発な意見交換がなされた。

【当日の様子】



【アンケート結果から】



②「総合的な学習の時間」の支援を通じた探究学習担当者研修

○研修の背景やねらい

「総合的な学習の時間」において、高等学校から依頼を受けて本学教員が講演を行う、または生徒の発表に対して指導を行う取組を実施した。授業時間終了後に、高等学校教員と本学教員で意見交換が行われ、課題設定時の留意点、発表時の留意点等について高等学校教員に対して助言を行った。

○対象、人数、期間、会場、日程、講師

日程	会場	講師	内容
H30. 7. 20	宮城県宮城野高等学校	事業構想学群 准教授 石田 祐, 学生 2 名	探究学習の進め方について生徒向けに講演, その後, 高等学校教員に対して指導の進め方について助言
H30. 8. 23	宮城県古川高等学校	基盤教育群長兼食産業学群 教授 川村 保	
H30. 9. 5	宮城県利府高等学校	事業構想学群 准教授 佐々木 秀之, 学生 4 名	
H30. 10. 16	山形県立米沢東高等学校	事業構想学群 教授 中田 千彦	
H30. 10. 26	宮城県気仙沼高等学校	看護学群 教授 菅原よしえ, 食産業学群 講師 伊吹 竜太	生徒の探究学習発表について指導助言, その後, 高等学校教員に対して発表の進め方について助言
H30. 11. 26	宮城県気仙沼高等学校	看護学群 准教授 萩原潤	

○各研修項目の配置の考え方（何をどの程度配置すべきと考えたか）

各取組については、高等学校ごとにカリキュラムが異なることから、大学側への要望もさまざまであるが、高等学校教員との意見交換、助言の時間については、一定の共通したコメントが挙げられた。

○各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数、使用教材、進め方

※前述のとおり、取組ごとの差異があるため、高等学校教員との意見交換、助言の時間の中で頻出した高等学校へのアドバイス内容を列挙する

人を対象にした実験を検討している研究があるが、研究対象を人にする場合、安全性の確保が重要。人に害が生じることがないか、対象者に協力への強要をしないよう指導が必要。研究活動においては、安全性の確保、人権の尊重をふまえることが重要である。
大学教員のアドバイス全てに必ずしも従う必要はなく、複数の意見やアドバイスについて、自身の研究の目的や方法を考えた上で、必要だと判断すれば受け入れ、そうでなければその旨説明をする、という判断力を身につけさせてほしい。
グループによって進度に差がある。進捗が遅れているグループに方向性を示すなど先生の介入が必要である。

③「アカデミック・インターンシップ」を通じた探究学習担当者研修

○研修の背景やねらい

本学では、高校生に「宮城大学での学び」に触れてもらい、「深い学び」について考えてもらう機会や自己の進路に対する目的意識を高めてもらう機会として「アカデミック・インターンシップ」を開講している。本取組は、大学での授業を体験することを通じ、宮城大学で学ぶことの魅力や学問の深さを知り、探究心を養ってもらうことに狙いがあるが、高等学校教員に対しても講座の見学を可能にすることで、大学教員の講義から、課題探究学習のヒントを持ち帰ってもらい、自校の探究学習に役立て頂いた。

○対象、人数、期間、会場、日程講師

内容	「アカデミック・インターンシップ」を通じた探究学習担当者研修
日程	平成30年8月8日（木），9日（金） ※8月9日（金）については、天災のため中止
会場	宮城大学 大和キャンパス
講師	基盤教育群 教授 河西 敏幸, 准教授 三浦 幸平
対象	高等学校教員5名

○各研修項目の配置の考え方（何をどの程度配置すべきと考えたか）

1日目（8日）については、大学で展開される基盤教育科目（いわゆる一般教養）から2講座を展開し、教養を広げるための様々な問いを学生に投げかけ、応答させる等の手法を通じて、高等学校教員の学びを促すことを狙った。2日目（9日）については、学類毎の専門的なプログラムに触れることを通じて、特定の領域に対する学問的興味・関心を引き出す手法を通じて高等学校教員の学びを促すことを狙ったが、残念ながら2日目は天災のため中止となった。

○各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数、使用教材、進め方

※実際に開講した講座のシラバスの一例

担当者	基盤教育群 教授 河西 敏幸
講義タイトル	高校時代からの科学的な健康・体力づくり –そのダイエットやトレーニングは本当に大丈夫？–
講義概要	幼少期～高校時代の誤ったダイエットやトレーニングは、将来的な健康生活に大きく・長く影響することがあります。食事コントロールや適度な運動をしているつもりなのに「体型が崩れていく」、「体力（運動能力）が上がらない」といった場合、その方法は科学的に正しくない、または今の自分に合っていないといえます。本講義で紹介する最新理論や実践例などから、自分にとって最適な健康・体力づくりのヒントを探っていきましょう。

時間	内容	生徒の動き	教員の指示
30	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼少期から高校時代における肥満・やせ，生活習慣，スポーツ指導（部活）等に関する現状や課題を確認する。 ・ 健康・体力づくりの基礎（食事，睡眠，体脂肪燃焼，筋トレ等）について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のからだの状態（動き）を確認，意識する。 ・ 講義を聴講する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 導入：簡単な動作チェックをさせる。 ・ 発達からみた健康・体力づくりの基礎について講義
30	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動能力，運動神経の向上に効果的なエクササイズ ・ 運動と自律神経系，内分泌系，免疫系との関係等を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義を聴講する。 ・ 各ライフステージで効果的な運動等を可能な範囲で体験しながら，各々の要素を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動による様々な効果，方法について講義 ・ 軽いエクササイズ，または動作を体験させる。 →種目，形式（個別，グループ等）は受講者の状況によって現場でアレンジする
30	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校までの運動歴，生活習慣等を踏まえた，自分に合った健康・体力づくりのヒントをみつける，または再確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動による様々な体内の変化をイメージしながら，現在から今後の健康・体力づくりについて講義を聴講する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動強度，質，量，時間，エネルギー系等の関係について講義 ・ 本日のまとめ

→実際に展開される講義の中から高等学校教員が，探究的な活動の促し方について修得することを狙った

④探究学習担当者及び大学教員との意見交換・勉強会

○研修の背景やねらい

座学での教員研修のみでなく、高等学校教員と大学教員の意見交換を通じて、①探究学習を進める上での課題を共有・解決すること、②生徒が作成した研究計画書の作成精度を高めるために、指導上の工夫について検討すること、③高等学校と大学の教育上の連携のあり方について検討することを狙いとした意見交換・勉強会を実施した。

○対象、人数、期間、会場、日程講師

日程	会場	名称	参加者	内容
H30. 6.20	宮城大学	第1回高大連携事業調整会議（課題研究プロジェクト研究会）	大学側12名、高等学校側12名	連携高等学校のヒアリングを通じて、教員研修に関する要望を聞き取りと同時に、探究学習で困っている事項について指導助言を行った
H30. 8.29	宮城大学	富谷高等学校課題探究学習プログラム指導研究会	大学側3名、高等学校側3名	探究学習実施担当者と大学教員を交えた指導に関する研究会を実施した
H31. 2.18	住友生命 仙台中央 ビル	宮城大学高大連携シンポジウム	高等学校教員32名、大学教員3名、教育関係者4名	他大学の取組から探究学習を進める上での課題を解決する手法を学ぶとともに、今後の高等学校と大学の教育上の連携のあり方について検討した
		第2回高大連携事業調整会議（課題研究プロジェクト研究会）	大学側8名、高等学校教員21名	連携高等学校のヒアリングを通じて、教員研修に関する要望を聞き取りと同時に、探究学習で困っている事項について指導助言を行った

○各研修項目の配置の考え方（何をどの程度配置すべきと考えたか）

高大連携事業調整会議については、従前においても6月と2月の年2回実施してきたが、今年度は本会議の中に「課題研究プロジェクト研究会」の位置づけを加味した。会議の事前に「高大連携ヒアリングシート」を高等学校側に提出してもらい、当日の会議の中で探究学習の進め方やプログラムの進め方の課題について意見交換を行うことによって、各高等学校が抱える課題を具体化した。

この会議を通じて「探究学習プログラム指導研究会」を実現したのが宮城県富谷高等学校であり、探究学習を進める上での課題を解決する手法を学ぶ機会として「高大連携シンポジウム」を開催する必要性が高まることとなった。

○各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数、使用教材、進め方
 一例として、平成31年2月18日の高大連携シンポジウムの進め方について記載する。

時間	内容	進め方
10分	趣旨説明	本シンポジウムの開催趣旨について説明を行った
45分	「アクティブ・ラーナー育成の課題—高大接続と教職学協働を中心に—」 講師：県立広島大学 学長補佐 馬本 勉	大学教育再生加速プログラムで採択された「アクティブ・ラーナーの育成」の取組について紹介頂くとともに、その中の一つである高大接続改革の取組（高等学校との教育研究実践合同発表会、授業参観の実施）について説明頂いた
45分	「高大コラボゼミの成果と課題」 講師：高崎経済大学 教授 矢野 修一	「ゼミ」という最も大学らしい知の形式が有する可能性を高大連携教育に取り入れた「高大コラボゼミ」の事例を紹介頂き、学生と生徒、高校教員と大学教員の相互の学びあいの成果について紹介頂いた
30分	宮城大学の取組報告	本学の高大連携事業及び、本研修プログラムで目指すことについて紹介するとともに、事業内容の共有を図った
30分	ディスカッション ファシリテーター：基盤教育群 特任教授 畠山 喜彦	

※後日、シンポジウム実施報告書を送付する（3月末日完成予定）

宮城大学 高大連携シンポジウム 大学と高等学校の協働による 探究型学習のさらなる可能性を探る

【後援】宮城県、宮城県教育委員会、公立大学協会

平成31年2月18日(月) 13:00~16:00

宮城県仙台市青葉区中央4丁目6-1

住友生命仙台中央ビル (SS30) 8階 第1会議室

【参加対象】高校教員、大学教員、教育関係者

高大接続システム改革の一つである高等学校教育改革の大きな柱として、学習指導要領の改訂をはじめとした教育課程の大きな見直しが行われている。その中でも新たに規定される「総合的な探究の時間」や「古典探究」、「理数探究」などにみられるような「探究」というキーワードに注目が集まっている。

このような「探究型学習」を今後どのように進めていくべきか、先行事例からヒントを得ると同時に、大学と高等学校教職員のそれぞれの立場での議論を通じて今後の可能性を考える機会としたい。

プログラム

12:30 開場・受付開始

13:00 開会挨拶 宮城大学 副学長(教育・高大連携担当) 徳永 幸之

13:05 趣旨説明 宮城大学基盤教育群長兼食産業学群 教授 川村 保

13:20 基調講演①：アクティブ・ラーナー育成の課題—高大接続と教職学協働を中心に—
県立広島大学 学長補佐 馬本 勉 氏

14:05 基調講演②：高崎経済大学「高大コラボゼミ」の成果と課題
高崎経済大学経済学部 教授 矢野 修一 氏

15:00 宮城大学の高大連携の取組紹介 宮城大学基盤教育群長兼食産業学群 教授 川村 保

15:30 討議 ファシリテーター 宮城大学基盤教育群 特任教授 畠山 喜彦

16:00 終了

※参加費は無料ですが、交通費・会場周辺の駐車料金等は参加者で御負担ください
※会場周辺の駐車場は混雑が予想されるため、できるだけ公共交通機関等を御利用下さい。

【参加申込方法】

- [1]裏面の参加申込用紙に記載の上FAXにて022-377-8282にお送り頂くか、
- [2]E-mailにて①氏名 ②所属 ③職名 ④連絡の取れる電話番号またはメールアドレスを記載の上、koudai-simpo@myu.ac.jp までお送りください。
(「-」はハイフンとなりますのでご注意ください)

メール申込用QRコード



【シンポジウムに関するお問い合わせ】

宮城大学事務局企画・入試課 企画・広報グループ 岸根(きしね)
TEL:022-377-8594 FAX:022-377-8282 E-mail:koudai-simpo@myu.ac.jp

3 連携による研修についての考察

(連携を推進・維持するための要点, 連携により得られる利点, 今後の課題等)

2回の高大連携事業調整会議を経て、高等学校側が課題探究型学習の進め方について様々な課題を抱えていることを把握した。個別高等学校との密なやり取りを通じて、高等学校側、大学側双方で指導方法・内容を共有し、その向上に努めていった点が本プログラムの大きな特徴であり成果である。これらの成果を高大連携の取組事例として、「探究学習を深化させた事例集」としてまとめ、本プログラムの成果品とした。

一方で、大学側のリソースが不足していることもあり、全ての高等学校に平等な機会を提供できなかった点については課題が残る。次年度以降は、大学内に「高大連携推進室」を設置することとなったことから、より全学的に組織的に本プログラムを継承していくこととし、宮城県教育委員会などとの連携も視野に入れながら充実を図っていききたい。

4 その他

[キーワード] 探究学習, 高大連携, 研修会, 課題研究, 総合学習

[人数規模] D. 51名以上

[研修日数(回数)] A. 1日以内

【担当者連絡先】

●実施者 ※申請する大学名又は教育委員会名を記載すること

実施者名	公立大学法人宮城大学	
所在地	〒981-3298 宮城県黒川郡大和町学苑1番地1	
事務担当者	所属・職名	事務局企画・入試課企画・広報グループ 主事
	氏名(ふりがな)	岸根 大輔(きしね だいすけ)
	事務連絡等送付先	〒981-3298 宮城県黒川郡大和町学苑1番地1
	TEL/FAX	022-377-8594 / 022-377-8282
	E-mail	kouhou@myu.ac.jp

●連携機関 ※共同で実施する機関名を記載すること

連携機関名		
所在地	〒	
事務担当者	所属・職名	
	氏名(ふりがな)	
	事務連絡等送付先	〒
	TEL/FAX	
	E-mail	